

### 演題番号 3

下顎窩部の人工物との関連が疑われた耳下部に生じた類表皮嚢胞の 1 例

○加藤壮真<sup>1)</sup>、森谷徳文<sup>1)</sup>、瀬上夏樹<sup>2)</sup>、武田斉子<sup>1)</sup>、薬師寺翔太<sup>2)</sup>、永田裕樹<sup>1)</sup>、飯田征二<sup>1,2)</sup>

<sup>1)</sup>岡山大学大学院医歯薬学総合研究科顎口腔再建外科学分野

<sup>2)</sup>岡山大学病院口腔外科顎口腔再建外科部門

【緒言】類皮嚢胞および類表皮嚢胞は胎生期に外胚葉が迷入することで発生するが、後天的には手術、外傷などにより上皮組織が迷入することで発生するといわれており、好発部位は頭頸部の正中部、特に口腔底正中である。今回われわれは耳下部に発生した類表皮嚢胞の 1 例を経験したのでその概要を報告する。【症例】患者は 64 歳男性、11 歳で先天性左側顎関節強直症に対して腹部組織の移植術を受けたが開口量は不変であったため 17 歳で関節腔内へのシリコンプレートの挿入を受けた。開口量は改善したが、2020 年 4 月より耳下部に違和感を覚え、当院耳鼻科を介して当科を受診した。臨床所見にて疼痛、開口障害はなく、左側耳介後部から下方に弾性軟の腫瘤を認めた。造影 CT では 28×21×20mm の類球形で内部に造影性のない腫瘤を認めた。左側下顎窩部には CT 値 200 程度のシリコンプレートが存在し、後下方外側の近接した位置に腫瘤が存在していた。MRI では腫瘤内部は T1 強調画像で低信号、T2 強調画像で高信号を呈していた。【治療経過】臨床診断として左側耳下部良性腫瘍や嚢胞が挙げられたが、左側下顎窩内の異物との関連を考え異物反応性肉芽腫を疑った。同年 11 月に全身麻酔下にて腫瘤摘出術を施行した。左側耳前部から顎下部に至る S 状皮膚切開を行い、腫瘤を一塊として摘出した。術中シリコンプレートとの連続性は認められなかった。病理組織所見にて摘出物内腔に角化細胞が観察され、皮膚付属器は認められず、類表皮嚢胞と診断された。そのため腹部組織移植時に迷入した上皮組織によって形成されたものではないかと考えられた。術後 9 カ月経過した現在、再発なく経過は良好である。【結語】今回われわれは顎関節強直症に対して複数回の顎関節授動術をおこなった患者においてシリコンプレートに起因した異物反応性肉芽腫を疑い腫瘤摘出術を施行した結果、腹部上皮組織の迷入に起因した類表皮嚢胞と考えられた 1 例を経験したので報告した。